



丸樹長三部《戦災跡》油彩・キャンバス 1945年



佐藤静司
右《桂、真の飛石》木版・紙
左《浄土平にて》鉛筆、水彩・紙
1985年



野地正記
上《宇宙人の争い》油彩・板
1960年代-80年
下《Oの顔》水彩・紙 1975-77年

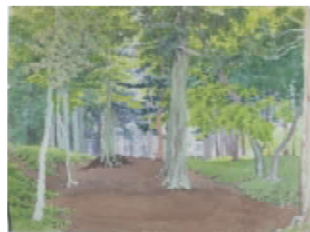


川端正光《徳坊》油彩・板 1918年

平成20年度寄贈作品

佐藤静司様より《桂、真の飛石》他28点、丸樹敏男様より丸樹長三部《戦災跡》他1点、野地友子様より野地正記《宇宙人の争い》他22点、加藤富士子様より川端正光《徳坊》、亀井よし子様より《亀井家伝来資料》一括、山鹿英助様より画帖『懐古東海道五十三驛真景』、勝呂忠様より『ハヤカワポケットミステリーブック』表紙原画)97点、高橋周子様より三木宗策《丹花綻ぶ》
皆様のご協力に感謝申し上げます。

《亀井家伝来資料》より



美術館のコレクションと新収蔵品紹介

美術館のコレクションを樹木にたとえることがあります。幹をのびし枝葉を茂らせて大きく育つ木のように、コレクションも時間とともに成長を続けるといえるでしょう。

イギリスの近代美術、日本の近代美術、郡山ゆかりの美術、本(版)の美術という四つの柱をもって作品を収集している郡山市立美術館のコレクションは、この柱ごとに一本の樹木に見立てることができるかもしれません。開館前のある程度、成長したイギリスの木は、その後は他に比べて成長の速度がゆるやかに見えるように見えます。これに対して地元ゆかりのジャンルは、開館後の成長がはげしくとも着実であるといえます。

当館では昨年度、寄贈8件によって新たに収蔵作品が加わりました。これまでも新収蔵作品などを「ザ・ルーフ」紙上で紹介してきましたが、今回はそれぞれの経緯などを合わせてご紹介いたします。

作家から寄贈されました。また郡山の作家と交流のあった県内関係の作家として、丸樹長三部の油彩画2点と野地正記の油彩画・水彩画等23点が遺族から寄贈されました。丸樹の作品は経年による傷みが見られましたが、幸い受入後間もなく修復することができ、郡山の戦災を描いた貴重な作例として近く紹介できるでしょう。野地の油彩画はすでに昨年、展示されました。

大正時代の芸術家グループ・草土社の画家のひとりである川端正光の《徳坊》は、当館で以前に開催したグループ展とその時代「展」の出品作家・加藤太郎の遺族に所蔵されていたものの、ほとんど作品が知られなかった画家の稀少な作例といえるでしょう。

同じように、以前開催した企画展がきっかけとなり、明治時代に活躍した画家亀井至の遺族から、デッサンやスケッチブックなどの貴重な資料類が一括して寄贈されました。中には版画工房・玄々堂関係のスケッチなどもあり、今秋の常設で特集展示する予定です。また至一の子である竹一郎が描いた油彩原画を当館で所蔵していること

【文中敬称略】



勝呂忠く『ハヤカワポケットミステリーブック』表紙原画)より

